

吸い込み釣りダンゴの作り方



手に水を付け、ダンゴが割れないように強く握り固める



市販の仕掛けの長いハリに「手づくり芋」を付ける



完成したダンゴ。市販の仕掛けはラセンがあるのでピギナーにも簡単にダンゴが作れる



ダンゴを二つに割り、その中に仕掛けを挟む。「手づくり芋」の付いたハリは外に出す

路である。
この川はヘラブナの好釣り場だが、霞ヶ浦と繋がっているのでバスの釣り人も多い。もちろん、鯉の魚影も濃く、上流の柴崎橋付近でメーターオーバーの実績

もあり、23kgの巨鯉が捕獲されたという情報もある。しかし、北浦、霞ヶ浦で大物の釣果が続出しているから鯉を狙う釣りはほとんどない。逆に言えば穴場の存在の川なのである。

10月6日の日曜日、前回、元荒川での釣果にすっかり気をよくしたN、Sの名人？は「鯉釣りなんて簡単、今日も大物を釣るぞ！」と余裕の表情で新利根川に現われた。

今回の釣り場である金洋津第一機場前は大浦新堀から排水され水通しも良く水深も深い所で6mもある。この深場に魚が集まってくるので、吸い込み釣りやウキ釣りにも絶好のポイントのはずである。

さて竿を出す前に今回の鯉釣りチャレンジのテーマを設定しよう。

1、匂いの強い寄せるエサで鯉を爆釣する。
2、ルアーロッドのちよい投げで鯉を狙う。
3、長いノベ竿、ウキ釣り仕掛けで鯉を釣る。

4、磯竿15号でミヤク釣り、2本バリ仕掛けで鯉を狙う。

これらの命題をいくつかクリアできるか？早くもチャレンジ精神に燃える迷人N、Sであった。



第2回

簡単な仕掛けとエサで鯉釣りを楽しもう!

鯉釣りチャレンジ in 新利根川
レベルアップ?で鯉爆釣!!

簡単な仕掛けとエサで鯉釣りを楽しもう!

第2回のチャレンジはインストラクターの黒川毅さんのアドバイスを受け、茨城県の新利根川で竿を出すことに決定した。

メーターの実績もあり魚影の濃い穴場の存在の新利根川で鯉を狙う

新利根川は小貝川下流の豊田堰から取水通水され、利根川と平行して約30kmの田園地帯を流れ、霞ヶ浦に注ぐ農業用水



**集魚力効果の強い配合エサが
絶対釣れるぞ大作戦!!**

本日の釣果、元荒川に続いて
新利根川も制覇して高笑いの
両名人?

ウキ釣り用配合エサの作り方

ウキ釣り、ミヤク釣りは「コイミ」で鯉を狙う

「コイミ」を2カップ入れる

水を1カップ入れる

水が均等に行き渡るようによく掻き混ぜる

完成したエサは水分が蒸発してバサバサにならないようにまとめておく

吸い込み用配合エサの作り方

1カップの水を加える

配合エサ全体に水分が行き渡るよう
手で混ぜる

配合エサが水分を吸収して手で握って割れない状態になったら完成

「これで釣れなきゃあ、鯉はいない」と自身満々のN迷人

鯉を寄せることがテーマで選んだ「タニシ吸い込み」「さなぎ粉」にこれだ!!

まず、メインの「タニシ吸い込み」を4カップ入れる

匂いの強い「さなぎ粉」をたっぷり入れて混ぜる

軽く掻き混ぜてからさらに「鯉にこれだ!!」をたっぷり入れる

最初のヒット! S迷人は前回より手慣れたやり取りの末、65cmの鯉をゲット!

まずは良型の鯉を釣り上げ
思わずVサイン。やったね



今回、竿を出す新利根川はカーブもなく、ポイントが絞りづらい

らに寄せの効果を狙い、匂いの強い「さなぎ粉」を混ぜる。止めに隠し味の「鯉にこれだ!!」を加えて新利根川のつばな鯉をロックアウトするという作戦である。新利根川の両岸はヨシが多く竿を出せるポイントが少ない。さらに直線的な水路なのでカーブがなく、点々とオダが入っている所もあるが、変化があまりないのでポイントが絞り難い。従ってマキエをして寄せる作戦は理にかなっている

匂いの強烈な配合エサの
ダンゴを投げ鯉を寄せる

天気は秋晴れ、気温18度、水温は22度もある。早朝6時にスタート。はやる気持ちを押さえて投げ竿、ウキ釣り用の仕掛けを作り、竿をセット。さて次ぎは問題のエサ作りである。

前回、武石名人からの教訓は「鯉は配



まずは仕掛けの準備、ミャク釣りの細仕掛けを作る



ポイントが決まったら竿をセット! ルアーロッドのちよい投げで鯉を狙う

と言える。
川幅の狭い新利根川ではバスボートが頻繁に通るので、対岸を狙う場合は、ボートにミチ系が引掛つ掛けれないように小さなオモリでミチ系を沈めておかなければならない。

ウキ釣り、ミャク釣りは「コイミー」で狙う。エサを作ったらず鯉を寄せるためにマキエを撒くことが重要である。タマゴ大に握ったダンゴを手でポイントに数発投げ入れる。とにかく寄せて釣ることに徹底するのだ。

ウキ釣りは竿を出したポイントが岸から5~6mあり、水深も2m以上あるので、のべ竿5.4mの長い竿を使う。仕掛けはミチ系3号、ハリス2号、ハリススレバリ8号に大型のヘラウキである。

釣り始めて1時間、まだアタリはないしかし、70cm以上はありそうな鯉が対岸で跳ねているので期待が持てそうのだが…。魚影は濃いのになぜか、釣れない素振りのコイさんなのだ。

吸い込み釣りのダンゴを1時間置きに投入、後は鈴の音を待つばかりとしばら



タマゴ大に握ったダンゴを手でポイントに数発投げ入れる

合エサで寄せて釣る」ということ。とにかく強烈な匂いで鯉の食いを煽ることである。N、S両迷人がうなぎの蒲焼きや極上ステーキにヨタレをたらすように、新利根川の鯉も美味そうないで誘惑しようという魂胆である。

吸い込み釣りには、鯉の主食であるタニシ粉末とタニシペレットの入った「タニシ吸い込み」をメインエサで使用。さ

第2回 簡単な仕掛けとエサで鯉釣りを楽しもう!

フナを釣り上げ得意
満面のN迷人、大鯉
はどうしたの?



時合いに必死のエサ打ちが効いて
ウキ釣りに連続でヒット!



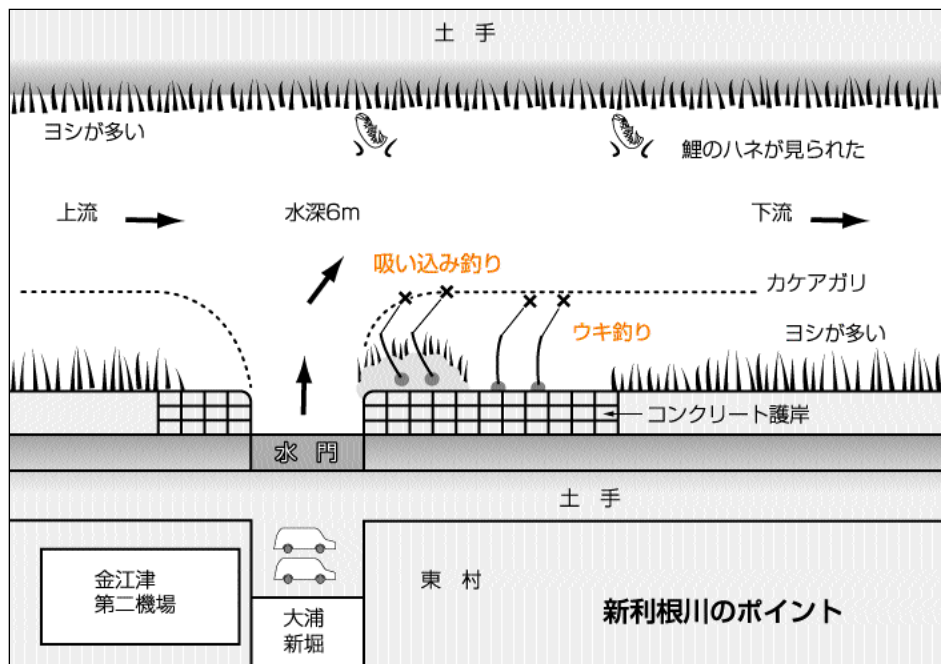
を狙うが、ポイントが悪いのか腕が悪い
のか一向にウキが消し込まれない。
やや諦めムード、ウトウト気分になっ
た10時15分、吸い込み釣りの鈴が鳴り、
竿が大きく揺れた。
「アタリだ!」と叫ぶと同時にS迷人は
竿の元に走る。前回より慣れたやり取
りの末、65cmの良型の鯉をゲット! 前回
のタモ入れ失敗の反省からか、N迷人は
慎重にアシスト、見事一発でタモに入れ
ることができた。やったね!

黒川会長の話では田ん
ぼのワラの灰汁が川の水
に溶け込んで流れて来る
と魚の食いが落ちるら
しいということである。
ウキ釣りはいくらエサ
を打ち返してもアタリが
ないので「浮子鯉」の工
サに変えてみた。
N、S迷人にはまかせ
ておけないとマルキユー
スタッフの鯉釣り名人H
がウキ釣りに参加して鯉

いくらエサを打ち込んで
もアタリがないので、「浮子鯉」
にエサを変えてみる



N迷人、特製のウキ釣りで
鯉を狙うがアタリが渋い



ウキ釣りに来た銀色のマブナ



くウキ釣りを試みていたS迷人にアタリ、
ガツチり合せてヒット! だが喜んだのも
束の間、釣れたのは鯉ではなくてブルー
ギルだった。繁殖力の強いブルーギルは
全国どの河川にも増殖して日本古来の魚
種の生態系に影響を与えている。
N迷人は大浦新堀から排水された水通
しの良いポイントでミヤク釣りを試みて
いたが、機場の排水が止められ流れがな
くなった。ミヤク釣りは釣れる可能性が
低いと判断。早々と竿をたたみ、得意の
ウキ釣りに専念するN迷人であったが、
どうしたことが? ウキ釣りにモジャミア
タリすらないのだ。

さらに11時10分にも60cmの鯉がヒット
! 寄せて釣るという作戦が見事に成功し
た。

吸い込み釣りは結果として図のように
大浦新堀からの緩やかな流れと本流の合
流点、岸寄りのカケ上りを攻めたのが
良かったようだ。さらにアタリが続いた
のは、頻繁に打ち返した寄せの効果が効
いたのだと思う。

釣れた鯉をヒクに入れ、キープして置
こうとしたN迷人。岸際の草に足を踏み
出したとたん、スッポリと片足が水の中
にはまってしまった。長靴の中が水浸し
のN迷人、いつも話題提供に事欠かない
のはさすが。このプロ根性は見上げたも
のである。でも、みなさんは絶対このよ
うなへまなマネはしないように注意しま
しょう!



ヒクに鯉を入れキープしようとしてスッポリ
と水に落ち、長靴の中の水と戯れるN迷人



黒川会長を囲んだ釣り場での食事は話が弾み食も進む

アタリが渋く釣果が心配されたがさらなるレベルアップ？で鯉爆釣

ウキ釣りは依然としてアタリがない。お昼近くで魚が食いの立つ時間帯でもないし、鯉と違ってそろそろお腹が空き始めてきた。

11時50分、ちよつと釣り台を離れたN迷入のウキ釣りの竿にアタリ、釣り台を引つ張るほどの大物だったが、残念ながらミチ系が切れて逃がしてしまつた。

その後、吸い込み釣りにはアタリがあるが、ウキ釣りはアタリが少なく、なかなか結果が出ない。そこで、「コイミー」から「浮子鯉」にエサを変更して挑戦する。

黒川さんがご飯を炊いてくれたので、みんなで楽しく昼食、やはりアウトドアの



60cmの鯉を持って記念撮影、カメラマンに変身のN迷入

食事は美味しい。時の流れを忘れてしまいうそに会話が弾む。黒川さんの人柄からか釣り場ではいつも仲間が増えるのだ。お腹も程よく満たされたので再度ウキ釣りに専念。3時20分ウキ釣りのN迷入によつやくマブナが釣れた。その5分後にはマブナの2連発、さらに鯉つ子と続けてヒット！

どうやらコマセが効いたのと時合いで食いがたつたようだ。早朝のアタリすらなかったのがウソのように入れ食い状態



もつと大きくなればよと鯉をやさしくリリース

となり、納竿間際まで次々にウキが消し込まれた。これから夕まずめまで狙い時であるが、あまり帰途が遅くなつても困るのと好釣果が得られたので残念ながら納竿となった。

対岸で跳ねた大物は仕留めることはできなかつたが、釣果は60cmクラスの鯉4匹、小鯉1匹、ヘラブナ1匹、フナ数匹の大成果であった。前回より格段のレベルアップ？で鯉爆釣だった。

「いやあ、鯉釣りって楽しいなあ、次回はメーターオーバーをバンバン釣るぞ！」と意気上がる両名人。どうもお疲れさまでした。